

木村莊八と木下杢太郎の
交友関係について2025 年
12 月 7 日（日）
14：00～15：30参加者
募集会場：目黒区美術館 1 階 ワークショップ室
当日先着順、定員 30 名程度
聴講無料

性格的に全く異なる二人の

雲岡石窟調査中のエピソード



「木村君が舌の中できれいにしやぶつた匙を、我々共
同のジャムの罐の中へつつこむことに對しては、さ
ういふことに潔癖を有する僕を大にやましましたが、
しまひにはなれてなんとも感じなくなつた。」

（『中央美術』1926年第3号）より
木下杢太郎「木村莊八君」

詩人で医学者、文芸評論家として知られる木下杢太郎（本名：太田正雄 1885-1945）は、画もよくし多くの水彩画、デッサンを残しています。その杢太郎は 1920（大正 9）年秋に画家木村莊八（1893-1958）と朝鮮・中国を旅行し、特に雲岡石窟の石仏群を模写しながら調査し、その成果として 1923（大正 12）年に木村莊八との共著『大同石佛寺』を刊行しています。その旅行後も二人の関係は様々な形で続きました。

現在、神奈川近代文学館の木下杢太郎文庫には、木村莊八から杢太郎に宛てた封書や絵はがきが約 60 通收藏されています。主にこれらの書簡などを通して、1920 年代から杢太郎の亡くなる 1945 年までの二人の創作活動にかかわる交友関係を当館館長が探ります。



橋 秀文

HASHI Hidebumi

1954 年、神戸市生まれ。1984 年、早稲田大学大学院文学研究科を経て、神奈川県立近代美術館に勤務。同館企画課長兼普及課長などを経て、2020 年、退任。2023 年より目黒区美術館館長。

1997 年、酒井忠康氏との共著『描かれたものがたり 美術と文学の共演』（岩波書店）を刊行。2020 年、『美術史研究』（早稲田大学美術史学会刊行、第 58 冊）に「木下杢太郎の不可思議な三味線」を執筆。

問合せ先



公式 SNS

目黒区美術館

〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36
TEL:03-3714-1201 <https://www.mmat.jp>Meguro
Museum of
Art, Tokyo